



平成29年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月9日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
 コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江里口俊文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 寺田尚文

TEL 0968-66-2111

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第2四半期の連結業績(平成29年1月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第2四半期	3,781	21.5	214		200		136	
28年12月期第2四半期	3,111	13.0	105		114		86	

(注) 包括利益 29年12月期第2四半期 136百万円 (%) 28年12月期第2四半期 149百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第2四半期	13.22	
28年12月期第2四半期	8.35	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年12月期第2四半期	21,629	10,795	49.9	1,044.36
28年12月期	21,738	10,710	49.3	1,036.12

(参考) 自己資本 29年12月期第2四半期 10,795百万円 28年12月期 10,710百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期		3.00		5.00	8.00
29年12月期		5.00			
29年12月期(予想)				5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,600	7.6	320	24.3	290	25.8	180	26.4	17.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - 以外の会計方針の変更 : 無
 - 会計上の見積りの変更 : 無
 - 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年12月期2Q	10,346,683 株	28年12月期	10,346,683 株
期末自己株式数	29年12月期2Q	9,253 株	28年12月期	9,253 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年12月期2Q	10,337,430 株	28年12月期2Q	10,337,430 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用に当たっての注意事項については、(添付資料) 2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(追加情報)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、昨年の熊本地震発生による被害で、一部通行規制されていた高速道路が全線復旧となるとともに、次第に客足も戻り、加えて、ゴールデンウィークが好天に恵まれたことで、九州の遊園地、ゴルフ場、ホテルは好調に推移いたしました。

北海道におきましては、新規導入したアトラクションとイベントが人気を博し、遊園地は好調でありましたが、ホテルにつきましては、特に第1四半期における宿泊者数が減少し、低調に推移いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,781,932千円（前年同期比670,124千円増）となり、営業利益は214,746千円（前年同期は営業損失105,907千円）、経常利益は200,410千円（前年同期は経常損失114,393千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は136,656千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失86,307千円）となりました。

	当第2四半期 連結累計期間 (千円)	前第2四半期 連結累計期間 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	3,781,932	3,111,807	670,124	21.5
営業利益又は営業損失(△)	214,746	△105,907	320,654	—
経常利益又は経常損失(△)	200,410	△114,393	314,804	—
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	136,656	△86,307	222,964	—

報告セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

① 遊園地セグメント

九州の『グリーンランド』におきましては、冬休み期間と各週末等にイルミネーションイベント「光のファンタジー」を開催し、冬季の集客増加を図りました。

春には、世界的な大人気アニメをテーマに、「ドラゴンボール超修業チャレンジ! ～悟空を目指して強くなるろう!～」と題した体験型アトラクションによるイベントを開催し、親子連れのお客様を中心に大いに賑わいました。

加えて、土日祝日には「仮面ライダーエグゼイド バトルステージ」を開催し、約230インチの巨大LEDスクリーンによる演出を駆使した大迫力のショーをお客様にお楽しみいただきました。

更に、5,000発の花火が舞い上がる春の花火大会「HANABI フェスティバル」、13体のピカチュウ達による「ピカチュウだらけの大作進」、初開催となる「グリーンランドイースター」等の趣向を凝らしたイベントにより、幅広い層の集客を図りました。施設面では、「ウェーブスインガー」に噴水の仕掛けと光の演出を施し、また、占いの館「ルクソールマジック」には新たに友達判断機能を加える等のリニューアルを行いました。更に、好評な「年間フリーパス」や絶好のポジションでキャラクターショーを観覧できる「特別観覧席付前売券」の販売を行うほか、「前売入園券」をイベント開催日前日までの販売へと改定して、各種団体等向けに「特別入園券」を販売することで、お客様のニーズに応えながら、売上ならびに集客の拡大に努めました。

その他、イルミネーションイベント「光のファンタジー」におきまして、光のトンネル（遊歩道）の拡張をはじめ、園内各所の光のスポットを更に拡充させ、夜間営業時の集客拡大ならびにお客様満足度向上を図りました。

以上の結果、熊本地震発生以降に落ち込んだ修学旅行等にも回復傾向が見られ、特に、ゴールデンウィーク期間の好天により順調に客足を伸ばし、利用者数は前年同期比128,075人増加の401,342人となり、売上高は前年同期比483,637千円増加の1,697,144千円となりました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、冬休み期間の集客は堅調でありましたが、小雪の影響による営業期間の短縮により、利用者数が伸びず、入場者数及び売上高は前年同期を下回りました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、ファミリー層に人気の高い「ポリショイサーカス」のロングラン公演に加え、ゴールデンウィーク期間中は、様々なキャラクターショーを開催することで集客を図りました。

また、新アトラクションとしてオープンいたしましたカード迷路「ぐるり森大冒険」は非常に人気が高く、多くのお客様に何度もご利用いただきました。

また、『いわみざわ公園管理』におきましては、ローズフェスタは好調となりましたが、5月中旬以降の天候不順による落ち込みが大きく、全体として低調に推移いたしました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は前年同期比5,324人増加の105,264人となり、売上高は前年同期比41,699千円増加の338,305千円となりました。

以上の結果、利用者数は前年同期比133,399人増加の506,606人となり、当セグメントの売上高は前年同期比525,337千円増加の2,035,450千円となり、セグメント利益は前年同期比267,575千円増加の313,533千円となりました。

② ゴルフセグメント

ゴルフセグメントにおきましては、コース整備や施設の拡充による顧客満足度向上を基本に、3ゴルフ場の特色を活かした集客に努めました。

また、熊本地震発生後、一時的に落ち込んだ韓国人ゴルファーの来場者数ならびに会員権販売数も復調しており、加えて、韓国内でのゴルフツアー造成会社との連携を強化し、更なる集客の拡大に努めてまいりました。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、好評な最新鋭のナビゲーションシステムのPRによる各種コンペの獲得に努めました。

また、フェアウェイならびにガードバンカーの拡張工事を実施することで、コース難易度に変化をつけ、常連客やビジター客を問わず、幅広い層のお客様にお楽しみいただきました。

更に、コースの改修のみならず、コース内のトイレ改装工事等、施設面での充実も行き、リピーターの獲得にも努めました。

『大牟田ゴルフ場』におきましては、キャディ付プランのご利用促進とともに、コース内のカート道路の改修をはじめ、ロッカールームの改装やスタート室前のテント新設など、施設面での改善による顧客満足度向上にも努めました。

『広川ゴルフ場』におきましては、コース内の樹木の大規模な伐採によるプレー環境の整備や、カート道路の改修等の施設面の改善に加え、PGAティーチングプロB級資格を保有する当社スタッフによる個別レッスン企画など、特色ある集客策を展開いたしました。

以上の取り組みの結果、利用者数は前年同期比5,707人増加の68,750人、当セグメントの売上高は、前年同期比45,251千円増加の509,150千円となり、セグメント利益は28,036千円（前年同期はセグメント損失5,648千円）となりました。

③ ホテルセグメント

九州の『ホテルブランカ』におきましては、遊園地やゴルフ場に隣接する強みを前面にPRして、お得なプラン造成による集客を図りました。また、シーズン毎や曜日毎のお客様のニーズに対応し、ウェブサイト予約を活用しての客室稼働率向上に努めました。

九州の『ホテルヴェルデ』におきましては、レストラン「フォンターナ」の座席数を増やし、また店内レイアウトを効率的に見直す等のリニューアルを行い、収益性の向上を図りました。また、ホテル外壁塗装や周辺施設の景観整備を行うとともに、中庭のイルミネーションを拡充することで、リゾートホテルとしての魅力拡充に努めました。

以上の取り組みを行いました結果、九州の『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前年同期比1,866人増加の34,701人となり、売上高は、前年同期比89,518千円増加の701,509千円となりました。

北海道の『ホテルサンプラザ』におきましては、5階の客室リニューアルを実施して、料金改定による売上の拡大を図りましたが、1月から3月にかけての宿泊者数の落ち込みが大きく影響し、低調に推移いたしました。

北海道の『北村温泉ホテル』におきましては、ステキフェアなどの企画商品による集客を図りましたものの、浴室改修工事に伴う休業期間の影響が大きく、入湯客や団体宿泊客が減少いたしました。

この結果、北海道の『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』を合わせた宿泊者数は前年同期比1,945人減少の11,931人となり、売上高は前年同期比16,462千円減少の323,159千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前年同期比79人減少の46,632人となりましたが、料金の見直しも含めた客単価の増加もあり、当セグメントの売上高は前年同期比73,056千円増加の1,024,669千円となり、セグメント損失は前年同期比36,617千円損失減の17,030千円となりました。

④ 不動産セグメント

不動産セグメントにおける賃貸収入につきましては、3月より新たに、遊園地北駐車場の一角をコンビニエンスストア用地として、土地賃貸を開始しており、当セグメントの売上高は前年同期比1,948千円増加の76,318千円となり、セグメント利益は前年同期比2,390千円増加の50,241千円となりました。

⑤ 土木・建設資材セグメント

土木・建設資材セグメントにおきましては、新たにバイオマス火力発電所への燃料投入作業の受託を開始しており、当セグメントの売上高は前年同期比24,530千円増加の136,343千円となり、セグメント利益は前年同期比265千円増加の15,576千円となりました。

(注)セグメント利益は四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っており、上記の全てのセグメント利益合計390,356千円より、各報告セグメントに配賦していない一般管理費を含む調整額175,610千円を差し引いた214,746千円が当第2四半期連結累計期間の営業利益となります。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、21,629,538千円（前連結会計年度末比109,282千円減少）となりました。

① 流動資産

流動資産は、530,988千円（前連結会計年度末比148,710千円減少）となりました。主な要因は、現金及び預金で142,672千円減少したことによるものであります。

② 固定資産

固定資産は、21,098,550千円（前連結会計年度末比39,428千円増加）となりました。主な要因は建物及び構築物で33,113千円増加したことによるものであります。

③ 流動負債

流動負債は、3,851,182千円（前連結会計年度末比142,469千円減少）となりました。主な要因は1年以内償還予定社債で100,000千円増加したものの、短期借入金で208,847千円減少したことによるものであります。

④ 固定負債

固定負債は、6,982,388千円（前連結会計年度末比51,985千円減少）となりました。主な要因は長期借入金で109,183千円増加したものの、社債で100,000千円、長期預り金で58,100千円減少したことによるものであります。

⑤ 純資産

純資産は、10,795,968千円（前連結会計年度末比85,172千円増加）となりました。主な要因は利益剰余金で84,969千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期の業績予想につきましては、平成29年2月14日に公表いたしました数値から変更はありません。なお、業績予想につきましては、現時点において得られた情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後の経済情勢の変化や事業運営におけるさまざまな状況変化によって、予想の数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	288,214	145,541
受取手形及び売掛金	202,507	149,307
商品及び製品	37,590	62,086
原材料及び貯蔵品	57,403	46,722
販売用不動産	7,130	7,130
繰延税金資産	15,364	29,975
その他	75,272	93,850
貸倒引当金	△3,782	△3,626
流動資産合計	679,699	530,988
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,108,610	4,141,724
機械装置及び運搬具(純額)	621,234	619,256
土地	15,062,040	15,064,075
その他(純額)	206,072	208,463
有形固定資産合計	19,997,958	20,033,519
無形固定資産		
その他	234,105	236,224
無形固定資産合計	234,105	236,224
投資その他の資産		
投資有価証券	337,788	338,140
繰延税金資産	303,979	303,806
退職給付に係る資産	121,403	124,559
その他	64,986	63,400
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	827,058	828,806
固定資産合計	21,059,122	21,098,550
資産合計	21,738,821	21,629,538

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	98,628	50,156
営業未払金	120,698	56,559
1年内償還予定の社債	—	100,000
短期借入金	3,356,932	3,148,085
未払金	255,643	259,732
未払法人税等	4,835	98,678
その他	156,914	137,968
流動負債合計	3,993,651	3,851,182
固定負債		
社債	100,000	—
長期借入金	3,809,989	3,919,172
長期預り金	2,909,042	2,850,942
退職給付に係る負債	8,938	9,122
その他	206,404	203,151
固定負債合計	7,034,374	6,982,388
負債合計	11,028,025	10,833,570
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,689,214	1,774,183
自己株式	△3,033	△3,033
株主資本合計	10,634,116	10,719,085
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	76,679	76,882
その他の包括利益累計額合計	76,679	76,882
純資産合計	10,710,795	10,795,968
負債純資産合計	21,738,821	21,629,538

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
売上高	3,111,807	3,781,932
売上原価	2,928,059	3,249,101
売上総利益	183,748	532,830
販売費及び一般管理費	289,656	318,083
営業利益又は営業損失(△)	△105,907	214,746
営業外収益		
受取利息	16	0
受取配当金	3,490	4,242
受取賃貸料	3,097	3,831
受取保険金	10,670	86
雑収入	3,293	2,447
営業外収益合計	20,568	10,608
営業外費用		
支払利息	28,531	24,613
雑損失	522	331
営業外費用合計	29,054	24,944
経常利益又は経常損失(△)	△114,393	200,410
特別利益		
固定資産売却益	4,299	—
受取保険金	7,538	9,727
補助金収入	—	58,726
特別利益合計	11,837	68,453
特別損失		
固定資産除売却損	2,664	4,886
固定資産圧縮損	7,010	68,300
その他	—	4,559
特別損失合計	9,675	77,747
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△112,230	191,117
法人税、住民税及び事業税	6,790	66,670
法人税等調整額	△32,713	△12,209
法人税等合計	△25,923	54,460
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△86,307	136,656
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△86,307	136,656

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△86,307	136,656
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△63,003	203
その他の包括利益合計	△63,003	203
四半期包括利益	△149,310	136,859
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△149,310	136,859
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△112,230	191,117
減価償却費	204,890	214,845
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△10,403	△3,155
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	254	183
貸倒引当金の増減額(△は減少)	230	△156
受取利息及び受取配当金	△3,507	△4,243
支払利息	28,847	24,927
投資有価証券売却損益(△は益)	△12	—
受取保険金	△10,670	△9,727
補助金収入	—	△58,726
固定資産除売却損益(△は益)	△1,635	4,485
固定資産圧縮損	—	68,300
売上債権の増減額(△は増加)	64,783	51,632
たな卸資産の増減額(△は増加)	4,202	△13,815
仕入債務の増減額(△は減少)	△89,667	△112,609
未払金の増減額(△は減少)	△11,205	5,516
未払消費税等の増減額(△は減少)	△9,720	△9,192
その他	△33,531	5,886
小計	20,624	355,265
利息及び配当金の受取額	3,507	4,243
利息の支払額	△28,655	△25,434
保険金の受取額	10,670	9,727
法人税等の支払額	△133,361	△17,840
法人税等の還付額	—	22,832
営業活動によるキャッシュ・フロー	△127,215	348,793
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△306,846	△327,028
有形固定資産の売却による収入	4,300	—
無形固定資産の取得による支出	△14,700	△5,190
補助金の受取額	—	58,726
投資有価証券の売却による収入	112	—
その他	△521	△176
投資活動によるキャッシュ・フロー	△317,655	△273,669
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△140,000	△187,000
長期借入れによる収入	1,300,000	882,230
長期借入金の返済による支出	△746,218	△794,894
長期預り金の返還による支出	△34,300	△58,100
リース債務の返済による支出	△8,507	△8,165
配当金の支払額	△82,429	△51,867
財務活動によるキャッシュ・フロー	288,544	△217,796
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△156,325	△142,672
現金及び現金同等物の期首残高	282,597	288,214
現金及び現金同等物の四半期末残高	126,271	145,541

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,510,113	463,898	951,612	74,369	111,812	3,111,807	—	3,111,807
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,316	5,418	12,176	5,675	4,510	29,097	△29,097	—
計	1,511,429	469,317	963,788	80,045	116,323	3,140,905	△29,097	3,111,807
セグメント利益又は損失(△)	45,957	△5,648	△53,648	47,851	15,310	49,822	△155,730	△105,907

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△156,043千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	2,035,450	509,150	1,024,669	76,318	136,343	3,781,932	—	3,781,932
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,817	5,440	12,204	11,852	4,333	35,648	△35,648	—
計	2,037,268	514,591	1,036,874	88,170	140,676	3,817,581	△35,648	3,781,932
セグメント利益又は損失(△)	313,533	28,036	△17,030	50,241	15,576	390,356	△175,610	214,746

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△175,722千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。